

会 議 録

1 附属機関等の会議の名称

令和4年度 第1回 松川町文化財保護審議委員

2 開催日時

令和4年 6月 25日(土) 11時から12時まで

3 開催場所

松川町資料館 視聴覚室

4 出席者氏名

文化財保護審議委員

亀山勝保 小椋吉範 宮下稔 山本晃永 長谷部正美 坂本正夫 中村美幸
事務局

資料館長:福島俊美 文教施設係長:矢沢秀子 主事:伊坪達郎 米山梓

5 協議事項

- (1) 部奈ミソベタ層 天然記念物指定に向けて
- (2) 大島城看板修繕(建替え)について

6 報告事項

- (1) 埋蔵文化財発掘調査について
- (2) ツツザキヤマジノギク保全協議会・保全活動報告について
- (3) 東京大学によるミヤマシジミの調査研究活動について
- (4) ヤマネ・モモンガ(地域を指定しない天然記念物)について
- (5) その他 委員から

7 傍聴人の数

なし

8 会議資料の名称

令和4年 第1回 松川町文化財保護審議委員会 資料

9 審議の概要

資料館長あいさつ

委員長・副委員長 選任

委員長: 亀山勝保委員 副委員長: 小椋吉範委員

審議委員長あいさつ

協議事項

- (1) 部奈ミソベタ層 天然記念物指定に向けて
- (2) 大島城看板修繕(建替え)について

報告事項

- (1) 埋蔵文化財発掘調査について
- (2) ツツザキヤマジノギク保全協議会・保全活動報告について
- (3) 東京大学によるミヤマシジミの調査研究活動について
- (4) ヤマネ・モモンガ(地域を指定しない天然記念物)について
- (5) その他 委員から

◎協議

- (1) 部奈ミソベタ層 天然記念物指定に向けて

—事務局より説明—

- ・今後の進め方、検討課題について
- ・第2回文化財保護審議委員会 現地視察時期・・・10月頃実施するよう日程調整する
- ・指定についての具体的な協議は現地視察をしたあとに行う

委員 A: 埋もれ木の露頭がある場所の土地所有者はわかっているか。

現地視察に行く際、地元案内人に足場を作っておいてもらいたい。

ミソベタ層の露頭は範囲が長いのですべてを指定するのは無理。指定するには人が安定して管理できる範囲に絞ったほうがよい。

事務局: 土地は私有地ではなく区有地だと聞いている。(確認する。)

足場については地元にご相談しておく。

委員 B: ミソベタ層は固いのか?

委員 A: 乾いていると非常に固く、水にぬれると柔らかくなる性質がある。

委員 C:いずれ子どもたちが見に行けるように整備が進むといい。

事務局:今後そのように整備を進めていくにあたり補助金を活用する等、いろいろな方法を検討していきたい。補助金については県にも相談しつつ活用できるものを探していく。

委員 B:ミソベタ層の現地視察とあわせて、前回話題に上った生田の丁観音も見学できるといい。

委員 D:あわせて見学可能。当日は案内する。

委員 B:生田には原風景といえるような場所が多く残っている。そのような場所を大切に残してほしい。

事務局:ミソベタ層の現地視察の際にあわせて丁観音も見に行くようにする。

(2)大島城看板修繕(建替え)について

—事務局より説明—

委員 B:文字だけの看板だと暗い感じがする。もう少し画像を加えたりしたほうがいい。

委員 E:看板が持つ意味を考えたとき、何を伝えたいかがとても重要。

どこか初めての場所に行ったとき必ず最初に看板を見るはず。まずここはどんな場所か?ということがわかるよう、もっと入口に看板を設置したほうがいい。

事務局:地元とも協議しながら内容・設置場所等検討していく。次回の審議委員会で進捗状況を報告する。

◎報告・その他

(1)埋蔵文化財発掘調査について

(2)ツツザキヤマジノギク保全協議会・保全活動報告について

(3)東京大学によるミヤマシジミの調査研究活動について

(4)ヤマネ・モモンガ(地域を指定しない天然記念物)について

(5)その他

○アカモズについて

委員 C:この辺りは全国で一番多くアカモズが生息しているといわれているが年々減少している。

事務局:大島では減っているが上片桐では増えてきたと聞いている。

委員 B:アカモズが果樹園に巣を作るのはなぜなのか。消毒の毒性が影響を与えないのか。

委員 C:かつて果樹園はなかったわけなので別の場所に作っていたはずだ。

委員 F:今も果樹園以外にも巣を作っている。上片桐にもいるが、増えているという感じはあまりしない。

○外来生物について

委員 D:外来植物であるオオキンケイギクの駆除については啓発が進んできている。

同じように、ほかにも入ってきている外来生物についてどう対処していくべきか検討が必要だと感じる。

ガビチョウという鳥も外来生物で増えてきているそうだ。生田にもいる。上伊那でも生息域が広がっていると聞く。

委員 A:飯田市美術博物館の研究者によると、ガビチョウは現在伊那谷で急激にふえているという。

事務局:町全体で広報できるよう、駆除の対象となる外来生物について審議会のなかでも随時情報提供をお願いしたい。

委員 C:外来生物として広報した後にはどうしていくかということも考えていく必要がある。

事務局:オオキンケイギクは一時期法面の緑化のために使用されていたこともあったが、特定外来生物として指定されてからは駆除対象になった。きれいな花が咲くため草刈りの際に残すというケースも多かったが、現在は役場環境係でも啓発・広報を行っていることで徐々に駆除対象であるという意識が高まってきている。

同様にほかの外来生物についても関係課とも情報共有し連携していきたい。

以上